

社団法人日本時計学会
平成 17 年度 事業計画書

(自 平成 17 年 1 月 1 日 ~ 至 平成 17 年 12 月 31 日)

・事業計画

1 . 研究会、学術講演会等の開催

(1) 学術講演会

マイクロメカトロニクス講演会を 9 月に中央大学で開催する。

研究論文発表 20 件程度を予定する。

(2) 研究会

時計及び時計応用技術に係わる最先端のテーマを 2 件選定し、専門の講師を招いての研究会を、3 月及び 11 月の 2 回中央大学理工学部教室で開催する。

(3) 見学会

会員の研修のため、産業界で顕著な業績を挙げている工場、研究機関等の見学会を 6 月に行なう。

2 . 時計及び時計応用技術に関する調査研究

時計及び時計応用技術に関する調査研究を行うため、特定のテーマを設定して複数の分科会を発足させる。分科会メンバーは 10 ~ 20 名程度とする。年 4 回程度の研究会を開催し、調査研究の成果は報告書または学会誌の記事によって報告する。

3 . 学会誌、学術図書等の刊行

(1) 学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年 2 回発行する。

Vol . 49 , No . 1 : 平成 17 年 6 月、500 部

Vol . 49 , No . 2 : 平成 17 年 12 月、500 部

(2) 講演論文集を年 1 回発行する。

秋季マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集 : 平成 17 年 9 月、300 部

4 . 研究の奨励及び研究業績の表彰

青木賞表彰委員会を設け、平成 16 年度の日本時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文を審査し、当学会初代会長青木保博士を記念した青木賞の第 39 回受賞研究論文を 1 編選考する。

マイクロメカトロニクス学術講演会の際、第 39 回青木賞贈呈式を行なう。

5 . 内外関係機関等との交流及び協力

米国 National Institute of Standards and Technology、National Association of Watch and Clock Collectors、LIB.of Congress、英国 The British Library、Michael Faraday House、LIB.of Japanese Science & Technology、ロシア The Inst. of Scientific & Technical Informatin(VINITI)、ドイツ Universitats-und Technische Informationbibliothek、との機関誌等の交換を行なう。

研究会を日本機械学会、応用物理学会、電子情報通信学会等関係学会と協賛して開催する。

・会議に関する事項

- 1．理事会を2回以上開催する。
- 2．総会を2月及び12月に開催する。
- 3．運営委員会を7回程度開催する。
- 4．分科会を4回程度開催する。
- 5．企画委員会を3回程度開催する。
- 6．出版委員会を6回程度開催する。
- 7．青木賞表彰委員会を2回程度開催する。
- 8．総務委員会を2回程度開催する。
- 9．事業委員会を2回程度開催する。
- 10．未来事業委員会を2回程度開催する。
- 11．校閲委員会を2回程度開催する。